

感染症

相双地域感染症発生動向調査週報(2026年第12週)

(令和8年3月16日～令和8年3月22日)

令和8年3月25日

定点報告(上段:定点当たり/下段:報告数)、全数報告(報告数)

区分	疾病名	2026年					2025年 合計	2024年 合計
		9週	10週	11週	12週	合計		
定点報告	インフルエンザ	18.67	10.33	6.67	2.67	—	—	—
		56	31	20	8	566	2,558	1,616
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	1.67	0.67	1.33	1.00	—	—	—
		5	2	4	3	94	1,139	3,622
	RSウイルス感染症	2.00	1.00	0.50	0.50	—	—	—
		4	2	1	1	16	156	309
	咽頭結膜熱	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	2	78	337
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.00	2.00	4.00	2.50	—	—	—
		4	4	8	5	44	243	657
	感染性胃腸炎	4.00	2.50	7.00	—	—	—	—
		8	5	14	0	93	430	610
	水痘	0.5	—	0.50	—	—	—	—
		1	0	1	0	4	10	6
	手足口病	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	15	952
	伝染性紅斑	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	141	0
	突発性発しん	0.50	—	—	0.50	—	—	—
		1	0	0	1	8	59	182
ヘルパンギーナ	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	4	19	
流行性耳下腺炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	1	10	13	
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	2	9	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	2	16	1	
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	0	0	
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	1.00	—	1.00	2.00	—	—	—	
	1	0	1	2	9	42	16	
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	0	0	
インフルエンザ入院	—	—	2.00	—	—	—	—	
	0	0	2	0	7	39	19	
新型コロナウイルス感染症(入院)	—	1.00	—	1.00	—	—	—	
	0	1	0	1	18	56	120	
急性呼吸器感染症(ARI)	75.67	66.33	51.67	40.00	—	—	—	
	227	199	155	120	2,617	8849	—	
全数報告	レジオネラ症	0	1	0	0	1	5	3
	百日咳	1	0	0	0	5	141	0

カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

定点把握疾患	インフルエンザは今後の動向に注意が必要です。
インフルエンザ	相双地域及び県(県内総数)は前週と比較して減少しました。本県における第12週の定点当たり報告数は11.35と、6週連続で減少しました。警報は継続中です。B型が約9割を占めており、今シーズンで既に感染した方も再感染する可能性があるため、注意が必要です。インフルエンザウイルスに感染すると、38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が現れ、喉の痛み、鼻汁、咳等の症状も見られます。子どもは、まれに急性脳症を発症し、高齢者や免疫が低下している方は肺炎を伴うなど重症になることがあります。引き続き感染対策の徹底をお願いします。
新型コロナウイルス感染症	相双地域及び県(県内総数)は前週と比較して減少しました。直近2年間の同時期より低い水準にあるものの、他疾患と同様、基本的な感染対策が重要です。
侵袭性肺炎球菌感染症	本県で1例報告がありました。侵袭性肺炎球菌感染症は、肺炎球菌が髄液や血液に侵入することで生じる感染症です。小児及び高齢者を中心に飛沫感染により感染し、髄膜炎等を伴う肺炎や、敗血症を生じます。予防にはワクチン接種が有効ですので、特に定期接種対象の方は早期のワクチン接種を推奨します。
梅毒	本県で4例報告がありました。前年の同時期と比較するとやや多いペースで増加しています。梅毒は梅毒トレポネーマに感染することで生じる性感染症で、感染後2～3週間でリンパ節炎や皮膚症状が現れます。ペニシリンの投与が有効ですが、放置すると症状は段階的に進行し、最終的には致命的な中枢神経症状が生じます。また、妊婦の感染により胎児が先天性梅毒を発症するため、パートナー同士の感染有無の確認や、不特定多数との性行為を避ける等の感染防止対策が非常に重要です。
麻しん	県内の発生は確認されていませんが、国内での感染者数の増加が続いています。麻しん(はしか)は麻しんウイルスによる感染症で、感染すると咳、鼻水、高熱、発しんが生じます。空気感染が主な感染経路であり、極めて感染力が強く、免疫を持たない人が感染者に接するとほぼ全員が感染します。旅行や多くの人が集まるイベントに参加する際は、麻しんがいつどこで発生しているか等、発生情報を事前に収集し、また、海外へ出張・旅行に行く方は、ワクチン接種(2回)の有無を確認し、感染防止を心がけましょう。

3月から4月にかけて、会食や人の移動が増える時期です。引き続き急激な感染拡大を防ぐため、普段と体調が異なる場合には出勤や登校を控えるなど体調管理に留意することや、咳エチケットや手洗いの励行、場面に応じたマスクの着用など、基本的な感染対策をお願いします。

(参考・引用)福島県感染症発生動向調査、感染症週報、2026年第12号